

## 令和2年度評価結果の反映状況

評価結果	業務運営の改善への反映状況
<p>1. 中期目標で示した、各病院における病床利用率の目標値を達成するため、病床の適正管理に努められたい。</p>	<p>令和2年度は、各病院ともに SARS-CoV-2(『新型コロナウイルス』という。)感染症の影響により病床稼働率が低下した。</p> <p>総合病院では新型コロナウイルス感染症の影響により、病棟の一部を感染症専門病棟として運用した。その結果、一般病床稼働率は 84.8%、新型コロナウイルス感染症専門病床を除く一般病床稼働率は 88.7%となり、目標値 90%を下回った。</p> <p>また、こころの医療センターでは新型コロナウイルス感染症患者受入のために病床を確保したことなどの影響により、前年度実績及び目標値を下回った。なお、コロナ病床を除く稼働率は 86.7%となっている。</p> <p>こども病院では、新型コロナウイルス感染症の影響により目標値の 75%以上を下回ったが、令和2年4月から正式稼働した入退院支援センターにて、効率的な病床稼働を目指していく。</p> <p>今後、各病院とも院内感染対策を取りつつ、近隣医療機関と連携して紹介率を向上させることなどにより、病床稼働率の向上を図る。</p>
<p>2. こころの医療センターにおいては、デイケアの新規利用者増加や訪問看護の拡充に取り組まれたい。</p>	<p>令和2年度は、病棟のリハビリテーション活動件数は前年度より増加したものの、外来デイケアについては11月から2月までの間感染防止対策としての受け入れ制限を実施したことなどから、昨年度実績を下回った。</p> <p>デイケアの受入制限期間中においては、動画配信やリモートによる集団プログラムを実施し、利用者とのつながりの維持に努めた。デイケア活動は、患者の社会復帰に繋がる支援であるため、今後も継続的に導入対象者に対するマネジメントの強化として、ポスター掲示や短期間限定募集、パンフレットのリニューアル等を行い、新規対象者の獲得に取り組んでいく。</p> <p>訪問看護では、必要に応じて PSW や作業療法士など複数の職種が関与することで、入院初期の段階から退院後の訪問看護を見据えた多職種連携を行うよう努めた結果、昨年度の実績を上回ることができた。</p> <p>今後も、訪問時の感染症対策に配慮しながら、積極的な支援を実施していく。</p>

<p>3. こども病院におけるラーニングセンターについては、マスタープラン（施設改修計画）とも整合を図りつつ、院内研修の集約化による研修環境改善に向けて運用・検討されたい。</p>	<p>ラーニングセンターについては、劣化改修や施設配置再編を中心とする本館リニューアル工事の影響で、令和2年度末までの期間、仮設倉庫としていたが、工事進捗の関係で令和3年7月頃まで期間が延長となった。</p> <p>令和2年度は、ラーニングセンターの運用方法等について引き続き関係部署で検討を行ったが、今後は、策定したマスタープランも踏まえ再開場所を含め、検討を続けていく。</p>
<p>4. 中期目標で示した、「期間を累計した損益計算における経常収支比率100%以上」を達成するため、より一層の収益確保及び業務運営の改善・効率化に取り組まれたたい。</p>	<p>第3期中期計画期間（令和元年度～令和5年度）を累計した損益計算における経常収支比率100%以上達成するため、施設基準の届出を積極的に行い、診療材料購入方法を見直すなど、収益の確保に努める。</p> <p>また、給与制度の改善・効率化を行ったほか、病院の医療情報システムを統合し、医療情報の共有化を進めている。今後も更なる収益確保、業務運営の改善・効率化に取り組んでいく。</p> <p>なお、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により医業収益が大幅に悪化したものの、空床補償等の各種補助金により適切に補填が行われた結果、経常収支比率100%以上を達成している。</p>